

Q&A

特異な分化様式を示す乏血性肝腫瘍

解答：

低分化型肝細胞癌

解説：

AFP, L3分画上昇を認め、EOB-MRI 動脈相にてリング状の増強効果をともなう乏血性腫瘍であり、肝細胞相にて明瞭な低信号を呈している。門脈侵襲 Vp2 をともなった乏血性肝細胞癌の術前診断にて拡大肝後区域切除術を施行した (Figure 2)。

病理検査では白褐色充実性腫瘍が1個で (最大径 39mm)、他は腫瘍栓であった。組織学的には好酸性胞体と核クロマチンの目立つ低分化な中～大型異型細胞であり (Figure 3, HE)、AFP, HepPar1, glypican-3 陽性の胞巣部分, CK19, CK20 陽性部分、それ以外の部分では chromogranin A, synaptophysin 陽性のリボン状配列部分を示し (Figure 3)、低分化型肝細胞癌をベースとした脱分化、神経内分泌系への分化転換 transdifferentiation が示唆された¹⁾。

以上より、神経内分泌系への分化を示す低分化型肝細胞癌と診断した。一般に肝細胞癌は多血性腫瘍であるが、低分化型肝細胞癌や混合型肝癌などでは乏血性腫瘍を呈することがある。本症例は脱分化 (CK19) から腸上皮系 (CK20)、神経内分泌系 (chromogranin A, synaptophysin) 分化転

換を示す肝細胞癌と捉えられる。幹細胞性と分化転換の分子メカニズムが近年注目されており²⁾、示唆に富む臨床症例として呈示した。

参考文献：

- 1) Cabillic F, Corlu A: Regulation of transdifferentiation and retrodifferentiation by inflammatory cytokines in hepatocellular carcinoma. *Gastroenterology* 151;607-615:2016
- 2) Tanaka S: Cancer stem cells as therapeutic targets. *Human Stem Cell Toxicity*, Sherley JL, ed, Royal Society of Chemistry, London, 280-294:2016

本論文内容に関連する著者の利益相反

：なし

出題：田中 真二 (東京医科歯科大学大学院
分子腫瘍医学)
松村 聡 (東京医科歯科大学医学部
附属病院肝胆膵外科)
木脇 祐子 (東京医科歯科大学医学部
附属病院病理部)
江石 義信 ()
田邊 稔 (東京医科歯科大学医学部
附属病院肝胆膵外科)

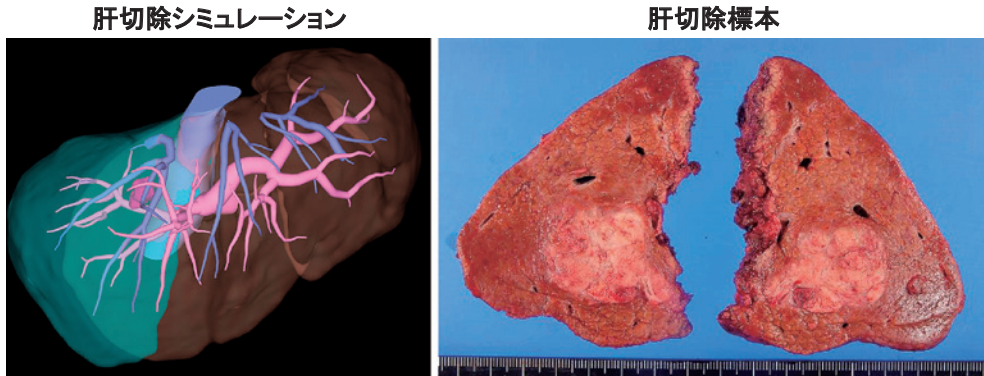


Figure 2. 肝切除シミュレーションおよび切除標本（肝 S7 腫瘍）：術中超音波検査にて P7 門脈侵襲 Vp2 および右肝静脈侵襲 Vv2 を認め、右肝静脈切除をともなった拡大肝後区域切除術を施行した。

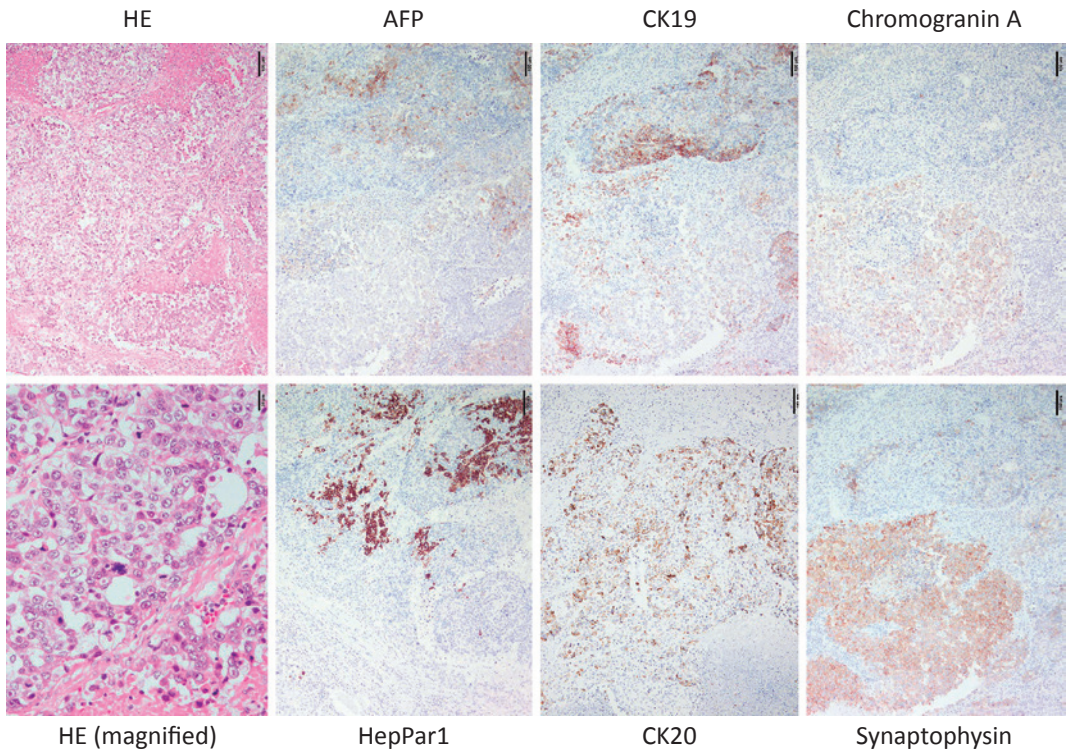


Figure 3. 肝腫瘍の病理組織学的所見：好酸性胞体と核クロマチンの目立つ低分化な中～大型異型細胞を認め (HE), 肝細胞系マーカー AFP, HepPar1, 胆管系マーカー CK19, 腸上皮系マーカー CK20, 神経内分泌系マーカー chromogranin A, synaptophysin が陽性であった。